

## 「蘇生に成功した心停止患者」における社会復帰前後の CPX 検査結果の 1 例について

## 蘇生成功と社会復帰に向けた心肺運動負荷試験の一例

◎田島 大路<sup>1)</sup>、波木井 裕之<sup>1)</sup>、村上 舞<sup>1)</sup>、塚越 由香<sup>1)</sup>、君島 弘樹<sup>1)</sup>、廣野 喜之<sup>1)</sup>  
医療法人徳洲会 武蔵野徳洲会病院<sup>1)</sup>

【概要】労作後に院内で心停止を起こし、長時間の蘇生後 CPX 検査を用いながら大きな後遺症がなく社会復帰を成し遂げた一例を経験したので報告する。

【症例】患者：60 代女性。既往歴：パニック障害。症状：労作後の動悸。状況：夜間救急外来へ搬送された患者の付き添いとして自宅から病院まで走ってきた。待合室で横たわっている当患者の CPA を ER 看護師が確認し、CPR を開始。二次救命処置が行われ、約 60 分後 ROSC となった。その後、心カテチームを招集し緊急カテを施行。左冠動脈前下行枝 #7 の 90% 閉塞により冠動脈拡張術が行われ入院。発症から 17 病日目に心臓リハビリ開始、約 25 病日目、90 病日目、165 病日目と CPX 検査にて評価を行った。

【血液検査所見】ROSC から集中管理を開始した 21 時間後に CK：9745U/L・CK-MB：316 U/L で peak out した。

【CPX 検査所見】1 回目 ATvsVO<sub>2</sub>：72%、PeakVO<sub>2</sub>：59%、VEvsVCO<sub>2</sub> Slope：28.1。平地でゆっくり歩行レベルの為、体力を付ける事を課題。2 回目 ATvsVO<sub>2</sub>：94%、PeakVO<sub>2</sub>：81%、VEvsVCO<sub>2</sub> Slope：27.6。身体機能向上傾

向ではあるが負荷検査後の不整脈と筋収縮運動を意識。

3 回目 ATvsVO<sub>2</sub>：95%、PeakVO<sub>2</sub>：93%、VEvsVCO<sub>2</sub>Slope：27.6。運動耐容能上昇。以後定期通院となり検査終了とした。

【考察】蘇生時に適切な胸骨圧迫と早期の心カテを行ったことで後遺障害がなくリハビリを開始できたと考える。運動能力を患者自身で計ることは困難であるため CPX 検査を用いて現状の負荷量を PeakVO<sub>2</sub> 決定することにより心停止を起こした患者でも安全にリハビリを行うことができた。退院前、リハビリ期間の中間、終盤に検査を実施することで目標を明確にし、社会復帰を成し遂げることができた。

【結論】約 60 分蘇生した事例ではあるが、多職種が関わったことにより蘇生後日常生活にはほぼ支障がなく社会復帰した症例を経験した。CPX 検査は今後のリハビリの目安を設定する為にも必要な検査である。早期の心肺蘇生・検査・リハビリのチーム医療が患者の社会復帰には欠かせないことを改めて感じた一例であった。  
連絡先：042-465-0783（直通）